

H25.5.9(木)

電 氣 新 聞



研究助成対象者ら(中央3氏)と
中村理事長(右)、深山専務(左)

3大学3テーマ選定

関東 保安協 研究助成金で贈呈式

関東電気保安協会(中村秋夫理事長)はこのほど工学系の大学、高等専門学校を対象とする研究助成事業の助成金贈呈式を東京都豊島区の本部で行った。2013年度は

過去最多となる十数件の応募があり、外部の学識経験者による審査委員会の厳正な審査を経て、3大学(茨城大学、東京工業大学、東京大学)の3研究テーマに決定した。

贈呈式には中村理事長、深山英房専務理事ら

が出席。中村理事長は「研究助成は当協会の公益目的事業であり、その趣旨を理解して頂く、有意義な成果を出してほしい」と期待を寄せた。

研究助成事業は10年度に開始した。電気の使用・安全に関する優れた技術の研究計画について支援を行うのが目的。助成は毎年度3件以内、1件当たり100万円と定められている。翌年度に研究成果の報告書をホームページで公開する。

今回選ばれた研究テーマは、田中正志・茨城大学工学部助教の「並列接続したリチウムイオン二次電池の劣化のばらつきプロセスに関する検討」、赤坂大樹・東京工業大学理工学研究科准教授の「燃料電池電極用の高比表面積多孔質炭素材料の植物系廃棄物からの合成」、熊田亜紀子・東京大学工学系研究科准教授の「配電線に侵入したサイジ検出用非接触電圧センサの開発」。